

(別紙1)

## 自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成31年3月22日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795400023		
法人名	株式会社ライフパートナー		
事業所名	グループホーム アムール忠岡アネックス		
サービス種類	(介護予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府泉北郡忠岡町忠岡中1-5-26		
自己評価作成日	平成31年1月22日	評価結果市町村受理日	平成31年4月17日

### 【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1278番地の2
訪問調査日	平成31年2月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は平成21年11月に開設しており、1階が小規模多機能ホーム、2階が1ユニット9名のグループホームとして運営しております。また、近隣には提携する医療機関があり、利用者様の体調変化にも即座に対応できる体制となっております。また、近隣のスーパーへの買い物や地域の活動にも積極的に参加しております。また、年間様々な行事(春・秋旅行、バーベキュー、クリスマス会等)を企画し、その際にはご家族様にも参加して頂き、ご家族様同士のつながりをもっていただけるように努めております。本ホームの理念にもある「愛のある我が家のような生活を指します。」「自由な環境を創造します。」「安心と信頼のホームの実現します。」を掲げ、常に職員が意識し、ご利用者様やそのご家族様、また職員がともに「アムールにいてよかった。」と思うことができるホームの実現に取り組んでいます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所では、家族の意見や要望を聞き出すための取り組みとして面会カードに「意見欄」を設ける等の工夫をしている。また、利用者の暮らしぶりや通院等の記録に加え、利用者の直筆での家族へ宛てたメッセージ等をまとめた「月間報告」を「アムールだより」とともに家族に届けており、家族が事業所に対してより「安心と信頼」を感じてもらえるための取り組みも行っている。

町との関係においては、町内で希少なグループホームであることから、町の職員を対象とした認知症サポーター養成講座や介護相談員養成研修の講師役を事業所の職員が担当しており、町の担当課との強い協力関係を築いている。

また、年2回の消防訓練に関しては、夜間を想定した訓練を実施するのはもちろんではあるが、利用者を安全に避難させるための具体的な避難方法を消防署員を交えて検討している。

食事については、通常の献立の他、お好み焼きやバイキング、鍋、流しそうめんなどを取り入れ、みんなで食事を楽しむ機会を作ったり、利用者の要望を取り入れて回転寿司やファミリーレストランでの外食を楽しめるようにしている。外出については、年に3回程度の遠足行事を行っており、奥河内イルミネージュ、滝畑ダム、新世界、須磨、淡路島などに出かけている。また、月に数回は二色浜やりんくうタウン周辺にドライブに出かけ、利用者の気分転換を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示、またスタッフの携帯する名札にも理念を印字し常に理念を意識できるようにしている。また、管理者を含めスタッフ同士でミーティングや個別に話し合う機会を多く作り、随時意見交換を行い理念に沿った支援が行えるように努めている。	事業所開設当初からの理念がある。管理者は、特に利用者やその家族からの安心と信頼に応えられることを第一に考えている。理念は事業所内に掲示をしている。また、職員の採用時はもちろん、社内研修や月1回のミーティングにおいて確認し、理念の共有とその実現に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会活動に参加。地域行事には積極的に参加している。また、地域のスーパー等にも日々の日課として買い物等に出掛けるなどしている。	自治会に加入し、回覧板や広報などの受け渡しを利用者と一緒に行っている。「だんじり祭」「ふれあい大会」「餅つき」などの地域の行事にも利用者と参加している。またクリスマスや夏祭りなどの事業所主催の行事に近隣住民の参加を呼びかけるなど、地域とのつながりを大切に考えている。なお、運営法人では平成31年4月より近隣で「認知症カフェ」を主催することとしており、利用者と地域とのつながりをさらに深める取り組みを予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員を通じ認知症に対する理解を深めて頂いたり、行政での認知症サポーター講座への講師としての参加やラン伴への参加を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、地区福祉委員、社会福祉協議会職員、行政職員の方に参加頂き、事業所の運営状況等を伝え、意見や助言を頂いている。	運営推進会議は、自治会長等の関係者が参加し、2ヶ月ごとに開催している。利用者家族へは参加を呼びかけているものの参加は難しい。会議では主に事業所の運営状況等の報告をしており、参加者からは地域行事や災害時の協力について助言や意見をもらっている。議事録は職員間で閲覧し、情報の共有を行う他、ミーティングを通じて報告している。	

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>利用者情報の報告を密に行い、また緊急時の受け入れや利用相談に対応するなどし連携を図っている</p>	<p>利用者の状況報告を行い、また町からは空き室を利用しての短期等の緊急の受入要請（年に1～2件程度）があるなど、町の担当者とは緊密な連携を取っている。さらに町の職員を対象とした認知症サポーター養成講座や介護相談員養成研修の講師役を担当し、強い協力関係が築けている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に係るマニュアルの設置や勉強会も定期的の実施している。ホームの玄関については、夜間のみ施錠とし日中は解放している。ホーム内の扉について、安全面を考慮し施錠を行っているが、事務所内の解除ボタンはいつでも押せるようになっている。</p>	<p>入職時に事業所独自の指針である「身体拘束等の適正化のための指針」により研修を実施する他、年に1回以上は研修や勉強会を実施し、身体拘束ゼロに向けた取り組みを行っている。無意識に発してしまうスピーチロックなども職員間で注意をしようこととしている。扉は安全面を優先させ施錠しているが、外出願望のある利用者は職員が付き添って一緒に外出している。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止や各種制度について定期的に勉強会を実施し、虐待防止に取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護についての勉強会を実施し、その中で各種制度についても学ぶ機会を設けている。また、過去には成年後見人を利用する利用者様の受け入れも行っていった。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には重要事項説明書を用い納得頂いてから契約を行っている。また、解約の際にも十分な説明を行い、退去後の施設入所等の援助も含め支援している。また、制度改定等があった際にもその都度ご説明を行っている。</p>		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会カードに要望を記入する欄を設けている。また、定期的にご家族様との連絡等を行い、ご意見を頂く機会を設け、出された意見については朝礼、終礼、ミーティング等を通じ職員間で共有するようにしている。</p>	<p>家族からの意見や要望は面会カードに意見欄を設けている他、家族の来所時に聴き取っている。利用者担当制を採用し、担当に当たった利用者のその月の様子や通院等の記録、そして利用者の直筆での家族に宛てたメッセージ等を「月間報告書」としてまとめ、家族に届けている。家族からの意見や要望は連絡帳に記録する他、ミーティング等で話し合い、運営に反映できるように努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映          代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>朝礼、終礼やミーティング、また個人的に話合う機会を設け、出された意見については、運営に反映するようにしている。</p>	<p>日頃は朝礼時や終礼時に関わらず日々の勤務の中でできる限り、管理者と職員が話し合える機会を作っている。日中の過ごし方について話し合い、外出する行事を増したり、また須磨や淡路島などの遠方への外出を実現させたりするなど、職員意見を運営に反映できるようにしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備          代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年2回の定期的な評価、適宜行う職員面談を実施し、その際に職員の思いを聞き、その意見を基にやりがいを感じる環境作りに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み          代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>本社研修への参加や全体会議においては毎回研修発表者を決め、各自でテーマを決め、学んだ内容を発表するなどしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上          代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>町内の事業所連絡会への参加等を行っている。また、他の事業所職員との情報交換などを行い、サービスの質の向上に努めている。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前には繰り返し面談を行い、本人の生活歴は嗜好についての聞き取りを行っている。また、取得した情報においては、職員間で情報共有しスムーズにサービス提供が行えるようにしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にご家族様との面談を行い、ご家族様の思いや本人の過去の生活歴等を把握するようにしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人様にとって必要な支援内容を検討し、必要に応じ他制度などの情報提供も行っている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、施設のルールを押し付けるのではなく、常にご本人の思いを聞きながら生活して頂くようにしている。また、家事等を行う際にも一緒に行うことにより「支援をする側」「支援をされる側」という関係にならないよう努めている。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の現状をこまめにお伝えし、ご家族様に支援して頂きたいことについても説明し、職員と役割を分担し本人の支援を行うよう努めている。また、施設行事についてはご家族様に声を掛け参加を促している。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の日課の中に馴染みのスーパーへの買い物を取り入れることや、自宅への帰宅などを取り入れ、関係が途切れないように支援している。	職員と一緒に知人や友人のお見舞いに行ったり、馴染みの美容院や利用者がかつて暮らしていた場所を見に行ったりしている。利用者の要望に応じて、手紙やはがき（年賀状）を馴染みの人たちに送るための支援にも取り組んでいる。	

21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を配慮した座席配置や、利用者同士が一緒に行える作業を提供したり、会話に職員が入りながらスムーズに利用者同士の関わりを深めて頂けるように努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後についてもご家族様と連絡を取り合い、必要に応じ転居先への情報提供等を行っている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の面談でご本人の思いを把握し、入居後についても常に思いを聞くように努めている。また、意思表示が困難な方には収集した情報から本人の思いや意向の把握に努めている。	利用者の思いや意向は日頃のケアを通じて聴き取っている。何気ない会話や利用者同士の会話の中から思いや意向を把握している。意思表示が困難な場合は、日頃の利用者の仕草や話した時の反応などを見ながら判断することもある。把握した内容は連絡帳に記入し、ミーティング等で話し合うなど、職員間で情報を共有している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	利用開始前に、ご本人、ご家族様から現在までの生活歴等の詳細を聞くようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル、食事量、排泄等について細かく記録を取り現状把握に努めている。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャー、介護スタッフ、主治医、ご家族様、その他必要な関係機関とのカンファレンスを定期的開催しご利用者様の状態を把握し、現状に合わせた介護計画の作成を行っている。	介護計画は3ヶ月ごとにモニタリングを行い、概ね6ヶ月ごとに見直しを行っている。心身の状態に変化があればその都度、介護計画の見直しを行っている。サービス担当者会議は必要な関係者と家族が参加して開催している。家族が参加できない場合であっても日頃把握している利用者や家族の希望等を反映させた介護計画書を作成している。

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>各種記録用紙を用い、日々の様子を細かく記録し、朝礼、終礼、ミーティングにおいて情報共有を図り、適宜ケア内容を検討し、必要に応じ介護計画の変更等を行っている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>日々、決められたサービスの提供ではなく、その日の体調等も踏まえ柔軟に必要なサービスの提供を行っている。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>様々な社会資源を把握するため、地域組織や行政から情報収集するなどし、ご本人の日々の暮らしに取り入れている。</p>		
30	<p>11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医の定期受診の際にはご本人様やご家族様の希望を伝えている。また、必要に応じ、主治医より他の病院を紹介して頂くなど、適切に医療を受けることができるよう努めている。</p>	<p>協力医療機関の医師による往診が2週に1回あり、通院が不要になる利点から、入居後かかりつけ医を協力医に変更する利用者が多い。他科への通院には家族または事業所職員が同行している。受診結果は、特に変化がない場合は毎月の「月間報告書」で家族に報告し、変化があった場合は電話やメールで報告している。家族が同行した場合は、直接家族から聴き取っている。聴き取った内容は、支援経過や連絡帳に記入し、職員間で情報を共有している。</p>	
31	<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護ステーションと契約し、週1回の健康管理を行い、指示があった内容については朝礼、終礼により職員への伝達を行っている。</p>		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院の際にはホームでの情報を医療機関に提供している。また、早期退院に向け、こまめに入院機関を訪問し、状態把握に努めている。</p>		
33	<p>12</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の際も説明を行い、また状態に変化があった際にもご家族様等に十分に説明を行っている。また、ホーム、ご本人様、ご家族様が方針を共有するよう努めている。</p>	<p>ここ数年は看取りの実績はない。入居の際に「重度化や看取りに関する指針」で事業所としての対応方針を説明し、同意書に署名をもらっている。重度化した際は、再度家族等との話し合いを重ね、結果的に終末期ケアは病院に委ねている。職員に対しては年に1回研修を実施しているものの、現在の体制においては看取りの対応は困難である。</p>	<p>今後も事業所で看取ってほしいという希望は益々増加することが予想される。看取りの実際を想定した実践的な研修の開催や看取りに携わった職員のメンタル面のケアのあり方など今後の取り組みに期待したい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時マニュアルの作成、また、勉強会を行うなどし対応できるようにしている。</p>		
35	<p>13</p> <p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>各マニュアルを作成、また消防訓練の実施、地域の避難訓練にも参加している。</p>	<p>年2回の消防訓練のうち1回は夜間を想定し、利用者と一緒に実施している。また消防署に相談し、利用者を安全に避難させるための避難方法を検討している。運営推進会議において地域住民の協力を呼びかけているが、これまで事業所が実施している消防訓練への地域住民の協力はない。水、米、スパゲッティ、そば、乾電池等、3日分程度の備蓄をしている。</p>	<p>災害発生時には、近隣住民の協力が不可欠である。引き続き運営推進会議での呼びかけは継続しつつ、消防訓練の日程を参加しやすい曜日や時間帯にするなどの工夫をし、ぜひとも地域との合同での消防訓練の開催に期待したい。</p>



IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、接遇等の勉強会を実施している。また、日々職員同士が気になる言葉かけ等について、注意し合える環境作りを行っている。	プライバシーの保護や接遇に関する研修や勉強会を実施している。日頃から利用者の尊厳を損なわないような声掛けを心がけている。トイレの誘導などで利用者が不愉快な思いをするような不適切な言葉遣いや態度が職員にあった場合は、その場で管理者や他の職員が注意を促せる職場環境を整えている。個人記録等の個人情報に関する書類は、事務所内の鍵付書庫に保管している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご本人様の思いを聞き、感じ取れるように努めている。また、普段の関りについて、ご自身の思いを表出して頂けるような関りを意識し行っている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に業務本位ではなく、利用者本位を職員が意識し、ご本人様が思うようなペースで生活をして頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性であれば、お化粧品を行って頂いたり、男性であれば髭剃りを行って頂いたり、外出時には着替えを行って頂くなど、常に身だしなみに意識して頂くことを重要視し支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくり、配膳、下膳等について、出来るだけご利用様と行き、食べる楽しみだけではなく作る楽しみなども感じて頂けるようにしている。	法人の管理栄養士が献立を作成し、本部で一括して食材を発注している。勤務している職員がその日の調理を担当し、利用者と職員と一緒に同じ食事をしている。利用者は能力に応じて、野菜を切ったり、配膳、下膳などを職員と一緒にしている。時には利用者の要望により献立を変更することもある。また、お好み焼きやバイキング、鍋、流しそうめんなどを取り入れ、みんなで食事を楽しむ機会を作っている。毎週、朝食に「パン」の日を設定していて、近隣のスーパーマーケットに利用者と一緒に朝食のパンを買いに行くこともある。利用者の希望で回転寿司やファミリーレストランでの外食もしている。

41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事形態への配慮、体調に合わせた食事量、水分についても体調に合わせて提供している。提供した食事、形状、水分量については記録に残している。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>起床時や毎食後には口腔ケアを実施。また、訪問歯科からの指導を受け、各利用者様に合わせた口腔ケアを実施している。</p>		
43	<p>16  ○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個人の排泄パターンなどについて記録により把握し、職員間で情報共有を図り、トイレ誘導のタイミング等を決定している。また、ご本人さまの様子を伺い、適宜トイレ誘導を行い、トイレでの排泄が行えるよう支援している。</p>	<p>個人の排泄パターンを把握しており、日中は職員からさりげなく声をかけトイレに誘導している。夜間は、トイレで排泄ができる利用者にはトイレに起きてきたときにトイレ誘導している。自室にポータブルトイレを置いている利用者はいない。事業所では、紙オムツの使用からリハビリパンツの使用に変わったり、尿取りパッドの使用が不要となった利用者も多い。</p>	
44	<p>○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘状態の改善の為、食事内容なども検討し、決して内服薬のみに頼らないように意識して取り組んでいる。</p>		
45	<p>17  ○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>意思の表出が可能な方については入浴を強制することなく、ご自身の判断で入浴時間等を決めて頂いている。また意思表示の困難な方については体調等を考慮し入浴して頂いている。</p>	<p>入浴は週に3回を基本としているが、利用者の希望により増やすこともできる。入浴時間帯も利用者の好みに合わせている。入浴を拒否する利用者には、時間をおいて入浴を勧めてみるなどの対応をしている。個浴で一人ごとに浴槽の湯をすべて入れ替えている。入浴剤を使用している利用者もいる。ゆず湯や菖蒲湯など季節を感じられる配慮もしている。原則同性介助としている。</p>	

46	<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>就寝時間、休息時間は定めておらず、ご自身の判断で行って頂いている。体調不良時にはこちらから声をかけさせて頂き、適宜静養して頂くなどしている。</p>		
47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>内服薬については、薬剤情報をカルテに保管し、職員が常に把握できるようにしている。また、内服薬に変更があった際には朝礼、終礼等で伝達し職員間で常に把握できるようにしている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>家事などを行って頂くなど、常に役割を持って頂くことを重要視し支援している。また、気分転換もかねての買い物や散歩も日々の生活に取り入れている。</p>		
49	<p>18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>施設物品の買い物にもできるだけご利用者様と一緒にいたり、近隣の散歩に出るなど外出の機会を多くつくるよう努めている。また、年に数回はご家族様の協力を得て外出するようにしている。</p>	<p>日頃は地元の忠岡神社をお参りしたり、近くを散歩している。また、散歩を兼ねて朝食のパンなどを買いに近隣のスーパーマーケットに歩いて出かけることもある。近くの喫茶店に行く利用者もいる。事業所では年に3回程度の遠足行事を行っており、奥河内イルミネージュ、滝畑ダム、新世界、須磨、淡路島などに出かけている。月に数回は二色浜やりんくうタウン周辺をドライブし、利用者の気分転換を図っている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人のお金については事務所金庫にて保管しているが、買い物の際にはできるだけ自身で持って頂き支払いを行って頂くようにしている。</p>		

51		<p>○電話や手紙の支援          家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご利用者さまから依頼がある際にはホームの電話からご家族様に電話をして頂いている。また手紙等についても支援している。また、月間報告書にはご本人さまが自筆でご家族様にメッセージを記入する欄を設けている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり           共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間の清掃を一日数回行い、常に清潔で気持ちよく生活して頂けるようにしている。また、フロアにも写真を貼りだしたり、机などの配置に工夫をするなど落ち着いて生活できる環境づくりに心がけている。</p>	<p>共用空間の清掃は概ね日に2回程度行っている。利用者の転倒事故を防ぐため、モップ掛けは夜間に行っている。壁面には、利用者の暮らしぶりがわかる写真を数多く飾っている。また、食堂で座る椅子も、利用者間の人間関係を考慮して決めている。必要に応じて席替えをしているものの、席替え自体が利用者のストレスにならないように気を配っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり          共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>席の配置については、ご利用者様の人間関係を考慮したり、ソファを配置するなど、自席以外でも自由に過ごすことができるように工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮          居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使われていた馴染みのものを置くなどし、出来るだけ落ち着いて過ごして頂ける環境作りを行っている。</p>	<p>居室内はエアコン、カーテン、電動ベッド以外は利用者の慣れ親しんだ家具や寝具等を持ち込んでいる。特に持ち込める物品に制限はない。利用者によっては、ギターや仏壇、編み物の道具を持ち込んでいる。室内清掃は職員が利用者と一緒にしている。エアコンのリモコンは事務所で保管しており、利用者の好みに応じた室温で維持している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり          建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>館内はバリアフリーとしている。また、階段、フロアには手すりを設置。昇降可能な方は階段の利用、困難な方にはエレベーターを利用するなど個別の能力に合わせ対応している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	①	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	②	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	②	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	②	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	②	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない